

令和6年6月28日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和6年6月28日(金曜日)

午後1時15分から午後2時50分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委 員 鷲尾 達雄 委 員 大久保 真紀
委 員 廣川 佳予子 委 員 熊倉 達也

4 欠席者

なし

5 職務のため出席した者

教育部長	竹内 正浩	子ども未来部長	星野 麻美
教育部参事(科学博物館長事務取扱)	金垣 孝二	教育総務課長	桜井 秀行
教育施設課長	吉田 朗	学務課長	大竹 美加
学校教育課部活動地域移行担当課長	石川 智雄	学校教育課主幹兼管理指導主事	稲毛 真哉
学校教育課主幹兼管理指導主事	佐々木 潤	学校教育課長補佐	名児耶 仁愛
中央図書館長	梅沢 一茂	子ども・子育て課長	深澤 寿幸
子ども家庭センター所長	大久保 千春	保育課長	江田 佳史
スポーツ振興課長	中山 玄		

6 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 中村 一幸 教育総務課庶務係長 今井 香

7 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 20 号	専決処理について（補正予算の要求について）
3	第 21 号	附属機関委員の委嘱について
4	第 22 号	専決処理について（職員人事について）

8 会議の経過

（金澤教育長） これより教育委員会 6 月定例会を開会します。

◇日程第 1 会議録署名委員の指名 について

（金澤教育長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、廣川委員及び熊倉委員を指名します。

◇日程第 2 議案第 20 号 専決処理について（補正予算の要求について）

（金澤教育長） 日程第 2 議案第 20 号 専決処理について（補正予算の要求について）を議題とします。事務局の説明をお願いします。

（深澤子ども・子育て課長） 議案第 20 号について説明します。資料記載の規則に基づき、5 月 30 日付けで教育長が行った専決処理である専決第 2 号「補正予算の要求について」、その内容を報告し、承認を求めるものです。本予算については、市議会 6 月定例会へ一般会計補正予算として議案提出し、承認されました。続いて、「令和 6 年 6 月補正予算（追加分）見積総括表」を御覧ください。子どもの貧困対策推進事業費「フードバンク活動応援補助金」の歳出補正額 180 万円については、説明欄に記載のとおり、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが令和 5 年 5 月に 5 類感染症に移行したことを受け、食品の流通が回復してきたことや、新型コロナウイルス感染症を発症した方の世帯へ県が食品を配布していた制度が終わり、その残余分

の寄附が無くなったこと等により、食品の寄附不足となっている「フードバンクながおか」に対する支援に要する経費を計上したものです。なお、補正額については、これまでのフードバンクながおかの活動実績等をもとに積算したものです。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 御異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認しました。

◇日程第3 議案第21号 附属機関委員の委嘱について

(金澤教育長) 日程第3 議案第21号 附属機関委員の委嘱について を議題とします。事務局の説明をお願いします。

(桜井教育総務課長) 議案第21号附属機関委員の委嘱について説明します。長岡市図書館協議会委員の任期が令和6年6月30日で満了するため、新しい委員を委嘱するものです。委嘱期間は、令和6年7月1日から令和8年6月30日までの2年間です。なお、委員については資料に記載の学識経験者、学校教育関係者、関係団体の代表、地域の代表、公募での選出です。再任4人、新任6人の計10人です。同じく、長岡市水族博物館協議会委員についてですが、委員のうち、金内茂氏が、長岡観光コンベンション協会副会長の退任に伴い令和6年4月30日付けで辞任の申し出があったことから、新しい委員を委嘱するものです。委嘱期間は、令和6年7月1日から他の委員と同じ令和8年3月31日までです。次に、長岡市子ども・子育て会議委員の任期が令和6年6月30日で満了するため、新しい委員を委嘱するものです。委嘱期間は、令和6年7月1日から令和8年6月30日までの2年間です。なお、委員については資料に記載の関係団体からの推薦及び公募による選出です。再任11人、新規9人の計20人です。続いて、長岡市スポーツ推進審議会委員の任期が満了するため、新しい委員を委嘱するものです。委嘱期間は、令和6年7月1日から令和8年6月30日までの2年間です。委員については資料に記載のとおり学識経験者、団体推薦、地域推薦、委員会推薦及び公募での選出で、再任8名、新任4名の計12名となります。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 長岡市水族博物館協議会委員は、全員の名簿がなく新任の方のお名前のみ掲載されています。他の協議会委員は全員のお名前の掲載があり、お名前から判断すると女性の割合がおおよそ4割以上ですが、水族博物館協議会はどのようになっていますか。

(桜井教育総務課長) 水族博物館協議会は委員9名のうち女性が5人で、割合としては55.6%です。いずれも、長岡市男女共同参画政策推進会議の定める女性登用率の数である、令和7年度まで40%から60%以下を達成しているものです。

(金澤教育長) 今回の附属機関では全てクリアしているということですね。

(桜井教育総務課長) はい、そうです。

(金澤教育長) 他に御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 御異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

◇日程第4 議案第22号 専決処理について(職員人事について)

(金澤教育長) 日程第4 議案第22号 専決処理について(職員人事について) を議題とします。事務局の説明をお願いします。

(桜井教育総務課長) 議案第22号専決処理について説明します。職員人事について、その処理に急を要したことから、令和6年6月26日付けで専決処理したため、報告し、承認を求めるものです。令和6年7月1日付けの人事異動です。教育部長 竹内正浩が、教育部長(学校教育課長事務取扱)となり、学校教育課長 遠藤雄一が教育総務課付 特命主幹となります。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり承認することに御異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(金澤教育長) 御異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認しました。

(金澤教育長) 以上をもちまして、議案の審議を終了いたします。

(金澤教育長) 続きまして報告事項に移ります。初めに、栃尾地域学校再編検討会の設置について事務局の説明をお願いします。

(大竹学務課長) 栃尾地域学校再編検討会の設置について説明します。検討会設置の目的は、令和4年度に長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会栃尾ブロックが、保護者に実施したアンケートの結果報告の中で、「少子化の進行が著しいため、学校の再編を考えていくべきだ。」と教育委員会に提案がありました。更に、栃尾地域の少子化の進行が著しく、令和10年度には同地域全体で小学校1年生が27人となること、令和12年度には、小学生が今年度の約6割、中学生が今年度の約7割に減少が見込まれることから、今後の学校集約及び学校集約後の特色ある教育活動について、「栃尾地域学校再編検討会」を設置して保護者及び地域の意見を聴くものです。検討会委員については、提案のありましたコミュニティ協議会運営委員の3名、保護者代表として栃尾地域の小中学校のPTA会長、未就学児代表で保育園等代表3名、その他、地区代表5名、地域代表3名、合計20名で構成しています。また、オブザーバーとして栃尾地域の小中学校長及び県立栃尾高等学校の校長に御参加いただいています。選出については、地域をよく知る栃尾支所の力を借りていります。開催予定としては、第1回検討会を7月4日(木)に予定しています。また、8月下旬の第2回検討会の後に、学校視察を予定しています。10月に第3回検討会を開催し、さらに第4回検討会では、特色ある教育活動及び集約先の学校を検討したいと考えています。11月下旬に保護者説明会、12月上旬に第5回検討会で全体のまとめを実施、その後、地域説明会を予定しています。検討会を進めていく中で、必要に応じて、開催日程及び内容の変更を行います。最短の想定であり、議論の内容次第ではスケジュールを変更したり、検討会の内容等を再検討したりするなどしてまとめて行きたいと考えています。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(鷲尾委員) 保護者に実施したアンケートの結果報告の中から、保護者側から提案があったとのことですが、アンケートの前段階でのやりとりや布石など、時系列で特別

なことをされていたのでしょうか。

(大竹学務課長) アンケート前に、特別なことはしておりません。

(鷲尾委員) 定例的なアンケートだったのですか。

(大竹学務課長) P T A連合会の栃尾グループの方が、自発的に実施したアンケートです。

(廣川委員) 検討会委員は栃尾地区の区長会から5名の委員が選ばれていますが、栃尾地区全体を網羅されているのですか。

(大竹学務課長) 全部ではありません。栃尾には七つの谷ごとに区があると聞いていますが、学校に所のある会長、又は副会長の方など、選任はお任せしています。

(廣川委員) 学校の保護者代表の方は、関係性のある保護者ですか。

(大竹学務課長) はい、そうです。

(廣川委員) 学校の保護者代表の方は、お子さんが学校に通っている保護者代表ということですね。皆さんがどのような意見を持ち寄り、この会を進めていくことなどの検討が行われているのですか。

(大竹学務課長) 学校長、区長、議員等にはお願いに伺い、御意見を聞いていますが、総論として、子どもが減っているため、集約しないといけないということは分かっているとして、どこの中学校、または小学校に集約するのかについてが今後の焦点になると考えています。

(廣川委員) 進め方についてもですね。

(大竹学務課長) はい、そうです。

(金澤教育長) 他に、御質疑はありませんか。

(熊倉委員) 栃尾ブロックのP T Aがあったということですが、地区又は校区ごとに温度差や危機感の差があると思いますが、現段階での話をお願いします。

(大竹学務課長) 下塩小学校は昨年度から統合の話が進んでおり、既に来年の4月に栃尾東小学校への統合が決まっています。栃尾東小学校と栃尾南小学校は同じ規模の小学校ですが、栃尾地域のもう一つの小学校である東谷小学校は2校に比べて規模が小さいです。地理的には、東谷小学校と栃尾南小学校は近くですが、栃尾東、栃尾南どちらと統合するのかということにおいては、東谷小学校としては統合を考えていないというのが現状ですが、7月の検討会を実際に開催してみないと分からない部分が

多いです。

(金澤教育長) 総論では理解を示していますが、個別になると、熊倉委員が言うように、色々な思いがあると思います。

(大久保委員) 学校再編検討会が行われることを、関わる学校の保護者の方はご存じですか。

(大竹学務課長) P T A会長には事前に委員をお願いしていますので、御理解いただいていると思いますが、全保護者へ話を広めるまでには至っていないと思っています。この会が始まってから話を持ち帰って、様々な保護者の方と情報共有していただくようになると考えています。

(大久保委員) 流れが既にほぼ決まっていて、決まった流れを初めて聞く保護者の方は驚くのではと思い説明を聞いていました。保護者の方への理解などはどのように考えていますか。

(大竹学務課長) どこまで保護者に情報が届いているのか、また情報共有がされているのかが不安な要素です。今後、保護者代表のP T A会長の方々には御尽力いただき、情報共有をしてきちんと対応していきたいと思っています。

(竹内教育部長) 補足しますと、令和4年に実施した小中学校在籍児童生徒の保護者アンケートにて、「将来的には統合もやむを得ない」という結果があり、そこから2年経過していますので、1年生、2年生の保護者に情報共有が不十分な方がいるのではないかという点があります。栃尾地域のコミュニティ協議会の中でも、少子化や地域課題のなかで検討しなくてはいけないという話は、3月に地域の求めに応じて現状を伝えに行っています。今回初めて、各学校の今後の児童生徒数の推移を学校名を明らかにして出しますが、これには色々な反応があると思いますので注意しながら進めていきたいと思っています。

(金澤教育長) 御心配されているように、大きな動きをいつ全体に周知するのは非常にタイミングを踏らなければならない所もあり、大々的にやれる段階ではないため、色々な代表の方との話を重ねて、明らかになったところでお知らせしていきます。予定にもありますが、保護者説明会と地域の説明会を丁寧にしていきますので、まだ、全体に大きくアナウンスはできない状態です。ただ、スタートは保護者の方も同じなので、部長からも説明がありましたが3年生以上の保護者の方はアン

ケートに関わっていますので、現段階ではこのような状況です。

(金澤教育長) 他に、御質疑はありませんか。

(鷲尾委員) 学務課の地域との調整について、安心して見守りたいと思います。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) 次に、中学校部活動の地域移行の進捗状況について 事務局の説明をお願いします。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 現在、検討委員会で話し合っている内容について報告します。検討小委員会で方向性が概ね決まりましたので、今年度より、検討小委員会を廃止して検討委員会に一本化し、様々な関係部局のメンバーを全て事務局に移動しました。委員長は引き続き金澤教育長、副委員長については、今後支援団体となるスポーツ協会、芸術文化振興財団の二団体から代表を選出させていただきました。また、新たに文化面での活動については、長岡市音楽文化協会事務局長で、アウトリーチや様々な御活躍をされている方に新規加入をいただき、芸術文化振興財団事業課長からも新規加入いただくなど、委員会構成を若干変更しました。種目別活動エリア編成に関することについては、2月に保護者に配信し、競技団体も含めて、第一案の種目別エリアについての御意見をいただいています。決定に向けて、9月、10月に種目別エリア会議を実施します。現状は各中学校の個々の先生の理解をより深める必要性や、種目別エリアの会議を中学校の先生方から仕切っていただく考えでいますので、種目別に全学校の顧問の先生が集まる会議を開催していただき、その会議に我々も参加し出かけていくことで、会の進め方や、細かい疑問点を解決する作業をしています。我々が想定した仮想エリアについて、今年の新入部員数を含めた活動なども顧問の先生方の資料として配布して、どれくらいの人数が入部するのか把握するため、仮想エリアを今後より実態に近い形で作っていきたいと考えています。最終的には、来年5月に、希望する人数によってエリア編成を調整していきます。次に、指導者に関することについての事前調査として、学校名・個人名は出さずに、市内に勤務する管理職を含む教職員へのアンケートを実施したところ、中学校では、およそ9割の回答があり、指導を希望する教職員は全体の15%でした。2年前に県が調査した時より下がっています。長岡市も同様で

すが、全国各地の自治体でも年々指導希望が減ってきている実態があります。県が人材データバンクを発表しましたが、長岡市でも、人材データバンクをこれから発表していきたいと考えています。スポーツ協会、芸文財団それぞれからデータバンクを作成していただき、市のホームページで募集を開始したいと考えています。また、現在考えている指導区分ですが、検討委員会でも「指導者」というとハードルが高いという御意見をいただき、「指導スタッフ」、「活動サポーター」という二つの形で募集区分を分けての募集を考えています。税込の金額が示してありますが、現在、県内では一番高い報酬額になります。有償の指導スタッフが半日 5,000 円で、税金等を控除するとおよそ 4,300 円となります。大会等で一日従事の場合は、8,000 円まで手当が出せると良いと考えています。なお、活動サポーターが大きなポイントで、指導者がいないことで、専門家がいなくてもクラブ活動ができないとなると、子どもの活動の場がなくなってしまいますので、長岡市では大人二人が付けば活動ができる体制を作りたいと考えています。仮に専門の指導者がいなくても、本来部活動は子どもたちの主体的な活動であり、勝利至上主義ではないことを踏まえると、まずは活動サポーターでも良いので、研修を受けていただき子どもの活動できる場を確保することを最優先に考えた募集になります。なお、誰でも良いというわけではなく、様々な条件を満たす方で、条件に合致した方だけが人材データバンクに登録することができ、更に、登録者には、市の指定する研修を受講していただき、違反した場合には辞めていただく内容の契約を含めて話し合いを進めています。採用後の指導者に関しては、保護者や参加する生徒からのアンケートをもとに、不適格な事項があれば調査・指導し、改善されない場合は同じく契約を解除することで、指導者の質やハラスメントへの対応をしていきたいと考えています。その他に記載してあるように、長岡市は国の重点地域に指定されており、長岡市を含め、全部で 7 都道府県 25 市町村が指定を受けています。今後、長岡市、長岡市教育委員会、スポーツ協会、芸文財団での 4 者協定を結ぶなかで、事務の一元管理により参加者の参加費軽減を図るために準備中です。協定を結んだ段階で人材データバンクに募集をかけ、企業や、大学・高専・県内を含めて指導者募集を広く進めていくことを検討委員会で確認させていただきました。御意見をいただき修正点があれば改善させていただきます。

(金澤教育長) 御質疑、御意見はありませんか。

(鷺尾委員) 現段階で今後、苦戦しそうだと思定できる部活や競技団体、また、手薄なエリアがあれば教えてください。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 教員の実態や、過去の教育経験から考えたときに、専門部と協議しているなかで心配なのは、卓球、ソフトテニスです。また、現在、部員が多い部活で、専門の指導者がいないところが心配です。

(鷺尾委員) 吹奏楽部はいかがですか。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 吹奏楽部の指導者についても心配しています。中越吹奏楽連盟が、学校の先生だけではなく、各楽団やサークルなどを回り指導の援助をお願いしているなかで、「楽器の指導は協力できるが、指揮が出来ない」という話もいただいています。今後、芸文財団を中心に指揮者を育成する研修会も予定しています。アンケートで回答している先生方も、吹奏楽部の希望者は少ない状況でした。

(金澤教育長) 他に、御質疑はありませんか。

(廣川委員) 指導者に関して、中学校の教職員で指導を希望する回答が 15%であったことについて、数字が大分下がっているとのことですが、どのくらいの見込みでアンケートを実施されたのか教えてください。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 2年前に県が全県を対象とした調査をしたなかでは、長岡市で指導したいと答えた割合が2割を超えていましたので、15%という数字は前回と比べると下がっている状況になります。

(廣川委員) 下がっている理由があるのですか。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 「部活動は時期が来たら他の人がやってくれるし、休日もなくなる」という感覚の先生方が増えたのでは、と予想しています。「制度がはっきりわからずやる気がしない」という声も実際に聞こえてきます。一部の大人が、強いチームを作るために指導者を引っ張りあうなどしている実態もあるのでやる気が出ないという話もあります。

(廣川委員) 今後の見通しが立てば数字も復活するのでしょうか。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 基本的に子どもと活動をすることが好きで教員になっていますので、始まった時に、やっぱりやろうと思う方は増えるのではな

いかと期待しています。魅力ある雰囲気にしていけたらと思います。長岡市は報酬額を高く設定していますし、市外に勤めている方や市外に居住している方でも長岡の地域クラブで活動ができますので、そういった方々の力を得られたらと考えています。

(廣川委員) もう一点、「指導スタッフ」と「活動サポーター」についてです。任期は更新制なのか、また、活動サポーターだけでも活動できるということで、指導スタッフと活動サポーターは、1対2で募集するのか等、割合を教えてください。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 一点目の任期については、本人が辞退するまで継続という募集要項になります。二点目の指導者の割合については、各チームが募集する割合は制限を設けずに募集をします。ただ、スタッフの人数分を払うのではなく、人数が大勢でも二人分の報酬を支払うとします。一人では負担が多いと思いますので二名体制を考えています。

(金澤教育長) 任期はないけれど、登録をすればいつまでも指導ができるというわけではなく、不適切なことがある方は指導できないということですね。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 検討委員会がスタートした後に、管理的な役割を今のメンバーに加えて、また、女性の比率を考え、一般の有識者や企業の方なども広く入れた形での委員会を立ち上げ、最初に委員会で採決をするのではなく、種目別にコーディネーターを配置し、コーディネーターが間に入って調査し、解決に向けての助言をしても駄目な場合には、検討委員会で採決をしていくことを考えています。

(金澤教育長) 管理や運営については、現在は組織を作って市町村全体で地域移行をしている所がなく、現段階では、やってくれる人がいたら簡単にその人に預けて、という動きが多いなか、きちんとした組織を作りましょうというのが長岡市の方針なので、指導者の管理なども気になります。

(金澤教育長) 他に御質疑、御意見はありませんか。

(大久保委員) 指導者の募集は、どのような告知を予定していますか。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 市政だよりと市のSNS、また、関係団体にはスポーツ協会と芸文財団からメールを送ります。企業には、支所地域にある商工会と商工会議所にチラシを持参し、説明できる機会があればさせていただきます。

企業によっては、副業禁止の規定がある可能性もあるため、御理解をいただきながらさせていただきたいと思います。県内の大学や、専門学校、市の関係各所も回りたいたいと考えています。

(大久保委員) 大きい団体も良いですが、体育館などに募集チラシを置くことで、実際にスポーツをしている人や地域で手伝えそうな方の目に留まるものがあると良いと思います。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 体育館で活動されている方にも見ていただけるように、各体育館にもチラシを置きたいと思います。

(熊倉委員) 広く指導者を募るということと、資格要件をきちんと決めて質を担保することは相反するようですが両立しなければならないと思います。最近、子どもたちに関わる性犯罪履歴がクローズアップされていますので、運用する際には、データベースを確認するなどの運用をお願いしたいと思います。指定研修とありますが、どこが運営主体として、どんな内容でどのくらいのボリュームで行うのか、現時点でのイメージを教えてください。

(石川学校教育課部活動地域移行担当課長) 性犯罪履歴に関しては法案が通ったところですが、実際の運用までは時間がかかるということです。情報が出た際には、教育長からも必ず入れるように指導を受けていますので、その様な形で運用させていただきます。指定研修に関しては、部活動地域移行室と支援団体が協力し、ジュニア・ユーススポーツ理念、長岡市の方針の理解・理念の内容や、ティーチング、コーチング、ハラスメント、安全管理として地震等の対応と救急処置・AEDなどを消防署からの協力を得て実施する等を相談しています。なるべく参加費を取らずに、一日で初回の研修を受けることができる6講座程を受講していただく形を考えています。加えて、「NAGAOKA SPORT COMPASS」が教科書として共通に活用できますので、チラシを配布しながら、指定研修はスポーツ協会や芸文財団の方でも指導者の講習会を行っていますので、参加案内をしながら行ってきたいと考えています。

(熊倉委員) あまりハードルを上げ過ぎると、手を上げずらくなると思いますので、バランスを考えないとですね。

(金澤教育長) 他に御質疑はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) 次に、6月議会における教育委員会関係の質問事項について 報告
です。事務局の報告をお願いします。

(竹内教育部長) 6月議会での一般質問における教育委員会に関係する質問につ
いて報告します。まず、田中茂樹議員からの「選ばれるまちづくりについて」の質問
です。「安心安全なまちづくり」、「長岡の魅力発信」、「新しい技術や人材を活用し
たまちづくり」、「安心して子どもたちが成長できるまちづくり」について質問があ
りました。最初に、教育・子育ての環境整備の取組と評価については、基本的には
教育委員会が実施していることについて評価をいただいたうえで、教育・子育ての
環境整備の取組と評価、方向性について市の考えを伺うという質問についてお答え
しました。続いて、子ども・若者支援の取組と評価、方向性について市の考えを伺
うという質問については、昨年度から電話相談窓口や「ほっとルーム」の設置、学
校や家庭、市の関係部局、外部の支援機関と連携を図っていることをお答えしまし
た。

(星野子ども未来部長) 笠井則雄委員からは「配慮を要する子どもと保護者への支
援体制の充実について」質問がありました。今年度から体制を強化していますが、
それらの取組について評価をいただいております、更に後押しをしたいとの思いからの
質問です。一つ目は、これまでの発達に特性がある子どもへの支援の課題について
です。支援の課題と発達特性がある小・中学生の数の推移について質問されました。
課題については、就学児健診で初めて発達特性が顕在化する児童が増えています。
就学前までの支援情報の学校への引継ぎや関係機関と学校の連携の難しさがある
ことをお答えしました。割合については、増加傾向にあることを数字を示してお答
えしました。二つ目は、対応等の一つである5歳児発達相談会について、昨年度の
新事業になりますが、その実績についてお答えしました。この事業の成果として、
「子どもの成長を振り返ることができた」や「相談の機会があり良かった」などの
保護者の声が聞けました。保護者の不安に寄り添って早期に適切な支援へ繋ぐこと
ができていると評価しているとお答えしました。三つ目の質問については、「こど
もすこやか応援チームの拡充によるアウトリーチを中心とした発達支援の充実

ついて」で、今年度から支援体制を強化しています。事業内容としては、専門職のチームが県や学校にアウトリーチを行っていることをお答えしました。現場の支援体制の強化をし、アウトリーチを一つの部署で行うことで、就学前後の一層スムーズな支援にもつながると考えています。四つ目の「小児科医のアドバイザー配置について」の質問には、今回、発達支援体制を強化するにあたり、日赤病院の小児科医である田中篤先生をアドバイザーに迎えました。議員も田中先生を良く御存じで、良い先生をアドバイザーにしたと話されていました。田中先生には、関係機関のよりよい連携及び支援体制の構築に向けて、指導・助言をいただくことをお答えしました。五つ目は、「配慮が必要な子どもの見守りのための保育園配置専任職員について」で、発達特性がある子どもの受け入れをしている私立保育園へ補助金を出している旨等を回答しました。令和4年度から補助要件を緩和しており、障害者手帳や療育手帳を持っておらず手帳の交付に至らなくても、個別の支援が必要だと認められる児童を対象にして補助金を加算しており、そのことから施設数や対象児童も増えて、専任保育士等も大きく増加しました。

(星野子ども未来部長) 藤井達徳議員からは、「小1の壁」対策について質問されています。藤井議員の知り合いのシングルマザーの方から、子どもが小学生になり、保育園の時は土日に仕事の際には未就学児を預かってくれる場所はあるが、小学生になり預かってくれる場所が無くなり非常に困っているとの話から、「小1の壁」の実態把握ということで、市の課題認識を質問されました。保護者が仕事と子育ての両立が困難になる問題であると認識しているが明確な定義付けが難しく、「小1の壁」としての実態把握は行っていないが、色々な角度から調査をしており、その中から、土日祝日などに子どもを預けたいというニーズがあることは把握しています。今後、実態調査をした方が良いと言われましたが、「小1の壁」に特化せずに様々な場面でそれに関係する項目を追加するなど、幅広く実態把握に努めたいとお答えしました。二つ目の、「相談窓口について」は、色々な困り事があってもどこに相談したら良いか分からないと言う声をよく聞くということから、市の窓口についての質問でしたので、現存の窓口をお答えしました。今後については、より一層の相談体制の確立が必要だと考えるとのことから、市の考えについて質問されました。今年度秋に、子ども未来部をさいわいプラザ6階に集約し、さらなる子育て支

援体制の強化を図ります。移転に合わせて、わかりやすく訪れやすい相談窓口の環境づくりを検討していることをお答えしました。来年度以降、母子保健と児童福祉の機能を合わせ持つ「子ども家庭センター」の設置を進める中で、市民の様々なニーズに対応できる相談体制についても検討していきたいとお答えしました。次に、ファミリー・サポート・センターの利用料の助成の質問については、先程のシングルマザーの方の話に直結しますが、ファミリー・サポート・センターを利用させていただくことが良いと考えますが、頻度が多くなると金銭面で負担となります。経済的な支援として利用料の助成をした方が良いとのことで、市の考えについて質問されましたので、さらなる支援が必要であると認識しているため、支援拡充について検討するとお答えしました。他の自治体でも、ひとり親世帯や、生活困窮世帯に対して少し多めに助成している自治体がありますので、長岡市でも増額したいと考えています。四つ目が、児童クラブの休日預かりの実施について、休日の預かりが必要と考えるが市の考えはどうかという質問です。現在、働き方の多様化が進む中、社会のニーズに合わせた施策が必要であると考えています。状況を見ながら研究していくとお答えしました。上越市は今年度から3か所の児童クラブで、試行を始めていますので状況を見たいと思います。

(星野子ども未来部長) 笠井綾華議員からは、保育に関する諸課題についての質問がありました。一つ目は保育料の軽減について、二つ目が保育士の配置基準について、三つ目が保育士の研修についてと、大きく三つについての細かい内容での質問でした。保育料の軽減については、未満児保育の無償化を求めたいという質問がありました。未満児保育の無償化を進めると、金額的にもかなりの負担が大きくなります。多子軽減対策については、きょうだいと同時に入園で2人目半額、3人目以降は無料としている制度を、同時入園を要件とせずに人数に応じて助成して欲しいとのこと。年齢制限関係なく助成すると、試算値で、約230世帯、子どもの数として約400人が対象となり、影響額約1.3億円が現在の軽減額2.7億円に上乗せとなると見込んでいます。ただ、これについても、直ぐに始めることは難しいため、現在市が行っている軽減策のあり方の見直し等も含めて、多角的に研究していく必要があると考えています。二番目の保育士の配置基準については、今年度から配置基準が見直されたことについての市の見解について質問されました。昨今色々な問

題が起きていることから、安心安全で、質の高い保育を確保していくための見直しだとお答えしました。保育士確保のための園への支援については、配置基準を見直すと、より保育士が必要となり、保育士の争奪が加速していきます。結果的には保育士の不足に繋がっていくと思われることから、保育士を確保するためにどのようなことをしているのか質問されました。市では、セミナーの実施や、色々な制度があることについて説明をしました。保育士の待遇改善については、保育士を確保するためには給料など待遇の改善が必要であるが、市だけするのは難しいため、国や県に要望することが必要と考えるが、市の考えはどうかと質問されましたので、国や県の保育士確保に向けた様々な施策の動向について注視しながら必要な対応を検討していくとお答えしました。三番目に、保育士の研修については、非正規で勤められている方の話で、非正規は研修を受けられないことについて、現状について聞かれましたので、非正規の方にも研修の機会を設けていることをお答えしました。受講出来ない場合についても、必要に応じて園内で研修を受けた人が研修内容を伝えることをしているとお答えしました。最後に、保育士の知識の差について質問されました。議員としては、保護者の負担軽減に対する意識に、都市部と地方で違いがある中、市でも積極的な理解と支援をすべきと考えるが、市の考えについて質問されました。例えば一時預かりで、保育園に預けた時に「お母さんがお休みなのに、お出かけで預けていくのね」というようなことを含む声掛けをされたことがあるということで、親にリフレッシュを許してくれないムードがあるが、都市部では、親のリフレッシュなどについて教育されており、預ける際には「楽しんできてね」と快く送り出してくれるという議員の見解から、そのような視点から長岡市も積極的な理解や支援をすべきと考えるが、市の考えについて質問されました。都市部と地方に関わらず、時代によって、また、社会のニーズによって価値観や考え方が多様化していることに加え、時代と共に変化していくものと考えています。確かに子育てに大きな負担があることを認識しており、保護者の負担軽減に努めていきたいとお答えしました。

(竹内教育部長) 最後に、金子陽奈子議員からは、自身も教職経験があり、教職についている関係者の方が周りにいることから、教職員も市民と同じように業務負担の軽減の視点から働き方改革をして、子どもたちと向き合う時間が増えることに繋

がって欲しいという願いから、市が業務負担の軽減や Edu-Diver 構想の実施をしているが、教員の負担になっていないかと質問されました。長岡教育情報プラットフォーム「こめぷら」を活用することで、事前に動画を探し集める必要や、時間をかけて企業を探す必要がなくなり、総合的に推進していくことで、教員が児童に向き合う時間や授業研究に費やす時間を増やしていきたいとお答えしました。続いて、タブレット端末の活用に悩んでいる教員がいるが、教員が授業で活用できる内容や方法と、活用するための研修体制について質問されました。活用している教員が増えている一方、授業にどう活用して良いか悩んでいる教員もいると把握しているため、要請訪問や研修講座を用意して教員の指導力向上に努めています。実態としては、教員同士で教えあう中で、教員間の関係性に好循環が生まれている事例も多く聞かれるとお答えしました。三つ目として、子どもからの相談の受け皿についての質問は、議員が豊島区で相談がオンラインで出来ることを御覧になり、長岡市でも行って欲しいとのことで、市で行っている相談体制と他市でのタブレットを活用した子どもの相談体制の構築について、市の見解について質問されました。学校では、子どもが安心して相談しやすい環境を整えるには、教師が直接聞くことが大切であることを念頭に置きながら、学校に相談しにくい子どもがいるので、色々なパターンの体制が必要であると思っています。タブレットを活用した相談については、課題をクリアしながら、今後も検討していくとお答えしました。

(竹内教育部長) 長坂将志議員からは、3 km未滿で通学している中学生も、スクールバスに乗れないかという思いのなかで、小中学校におけるスクールバスの運行についての質問でした。市としては、文部科学省の小学生が概ね4 km、中学生が6 kmと基準があることは知っていますが、通学路の歩道の有無や降雪の状況など、各学校区の実情を踏まえて決定していること、また、最近ではクマの出没などに対して事情を勘案し運行対応していることをお答えしました。また、冬期間は臨時にスクールバスを確保して対応して欲しいと思うが、市としての考えについて質問されました。中学生の場合、6 kmと基準はありながら、各学校区の実情に合わせて対応していることや、公共交通機関等の利用には補助を行う支援制度をつくり、工夫して対応していることをお答えしました。

(金澤教育長) ここまでの一般質問で、何か御質疑、御意見はありませんか。

(鷲尾委員) 笠井議員が質問された件について、以前保育園を訪問した時に、子どもが一生懸命絡まったカバンを直している姿を見守っている先生と、それをやってあげようとする先生を同時に目撃したため、相反する保育士さんがいることについて園長先生に質問したところ、正規の方は研修などでスキルアップされており、見守る指導が出来ているが、非正規の方は、勉強したことがアップデートできないまま、研修の機会は与えられているかもしれないが、自ら研修を受けられていない、受けるモチベーションが高まらない状況の中で、昔のままの意識で子どもに接している現状があるという話を聞いたことがあります。本日、施設訪問にて訪問した保育園で園長先生に同じ質問をしたところ、園長先生、副園長先生も大いに頷いて、「機会を与えても、残念ながら非正規の方々のアップデートは難しい。」という話を聞いてきたところです。ルールや仕組みはあるものの、運用の部分でもう一步踏み込んだソフト面でのアイデア等がありますか。

(江田保育課長) 御指摘の件については現場からも少し聞いており、大きな課題意識を持っています。答弁の中にもありましたが、職階などの制限の中で非正規職員が受けられない研修があったり、仕事の都合で受けられない研修については、伝達研修を園内で徹底しています。私も保育園を訪ねていますが、状況を確認しながら、引き続き非正規職員のスキルについてもアップデートを図るように丁寧に指導させていただきます。保育ICTシステム「CoDMON」を導入し、動画で研修が受けれるようになりました。園によって使い方は様々ですが、非正規職員も集まり、何人かで研修を受けている様子を見ていますので、動画研修なども活用しながら、御指摘の所が無いように、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

(星野子ども未来部長) 受ける側のモチベーションや、気持ちがやはり大きいと感じます。機会は与えていると思いますが、本人が受けたいという気持ちや身に付けたいと思うかどうかという根本的な問題になってくると思っており、そこについては、個々の職員の資質によるものでもあるため、園長と話をしながら丁寧にやっていきたいと考えています。

(金澤教育長) 研修を受けられる、受けられない、意欲的に取り組む、取り組まない話と、実態としてアップデートされている人がいる、いないというのは何故なのか。直結してはいなくて、研修を受けてもアップデート出来ない人もいることから、

研修は仕組みとして当然しなくてはいけないが、現実の中で、やはり保育に関して新しい保育の感覚になっていない人は、正規、非正規という線引きだけではないと思います。その実態があるとした時に、それをどのように解消するかについて、研修は一つの手段ではあるが、手段を整えてもよくなるのであれば、別な手段を考えていく必要があると考えます。園長先生なのか、仲間、同僚間での何かなのか、学び合いなのか、OJTなのかはわからないが、別のアプローチで、現場の保育士がアップデートできることを考えていくことは、研修一つでは言えないと思います。視点を少し変えて、鷲尾委員からの課題に対して考えた方が良くかもしれません。

(金澤教育長) 他に、御質疑はありませんか。

(金澤教育長) 次に、文教福祉委員会をお願いします。

(星野子ども未来部長) まずは、波多恵理委員から、子宮頸がんワクチン接種について質問がありました。子宮頸がんワクチン接種については、キャッチアップ接種が今年度が最終年度ということもあり、啓発の意味も含めての質問です。キャッチアップ接種に係るこれまでと今後の周知啓発については、これまで周知してきたこととお答えし、また、今年度中に接種が完了するには、9月中に1回目の接種を行う必要があるため、7月にキャッチアップ接種の未完了者全員に個別ハガキを送付する予定であるとお答えしました。次に、定期接種に係るこれまでと今後の周知啓発については、毎年4月に、小学校6年生女子全員に啓発リーフレットと予診票を送付し、6～7月に全6年生にお知らせを配布していること、今後は、夏休み前に中学校を通じて、中学校1年生から3年生の女子生徒にリーフレットの配布を予定をしており、周知・啓発に努めてまいりたいとお答えしました。

(竹内教育部長) 笠井綾華委員からは、部活動地域移行について、一つ目は、保護者への周知・広報について質問があり、まずは3月に開催された保護者説明会で想定していた参加者数と実績について質問されました。600名の参加者を想定していたが、実績は二日間で48名であった理由については、「中学入学後、各校でも説明会を行う」と記載したためと考えられることを回答しました。その他に、スポーツ協会主催のスポーツ少年団や競技団体向け説明会への参加もあったと聞いています。また、興味・関心のない保護者への制度周知が必要と思うかについては、学校

経由でのプリント配布のほか、入学式のPTA入学式等で、学校から説明をして生徒本人に対しても説明していること等、現状を説明しました。現在の部活動地域移行の検討状況については、平日の地域移行の予定について質問されました。当面の間、平日部活動を継続し、令和7年9月から休日部活動の地域移行を図り、「地域クラブ活動」の開始を予定しています。次に、保護者負担の増加に対する支援策については、地域クラブの運営面で、事務機能の一元化を図り、参加費の低廉化・均一化のために体制整備を推進し、必要に応じて保護者負担軽減対策も検討することをお答えしました。指導者の確保について、不適切な指導者を生まない仕組みづくりについても質問があり、先程の説明と同様にお答えしました。続いて、指導者は副業となる場合があるが、企業等への理解はどのように図るかについては、関係団体に協力を依頼し、理解を得るために周知して回ることをお答えしました。最後に、長岡市の部活動地域移行は先進的な取組として視察も多いと聞いているが、長岡ならではの考え方や大切にしたい思いなどについて質問されました。地域クラブ活動は、従来の部活動の目的、生徒の自主的・自発的活動で健全育成を優先し、勝利至上でなく、主体的活動の場として整備したいと説明しました。

(星野子ども未来部長) 関充夫委員からは、子育ての駅千秋「てくてく」のリニューアルについて質問がありました。一つ目の利用状況については、利用者数をお答えし、コロナ禍以降、利用者は増加傾向で徐々にコロナ禍前の水準に戻りつつあることをお答えしました。リニューアルについて、開館から15年が経過し、周辺に類似施設ができる状況を踏まえ、魅力アップのためのリニューアルが必要と考えるが市の考えはどうかという質問です。子育ての駅については、主に就学前の子どもを対象とした施設となります。保育士や子育てコンシェルジュが常駐して相談・交流・保育・情報提供の場といった機能に加えて、全天候型の子どもの遊び場の機能を有した施設で、利用者から高い評価を得ています。一方で、就学後の子どもたちが思い切り遊べる広いスペースや、ダイナミックな遊びができる場所が欲しいと要望があります。それについて課題認識を持っていますが、子育ての駅もリニューアルとするかは別のものとするのか研究していく必要があると考えるため、今後の方向性について、検討を進めていくことをお答えしました。

(竹内教育部長) 同じく関充夫委員から、中学生に対する支援だけがないのではと

の思いや、地域の小学校から中学校に進級した時の通学距離が長くなったりすることについて、中学生に対する支援について考えられないかということで質問されました。自転車通学者への自転車購入補助を創設してはどうかについては、通学だけでなく、日常生活の買い物や友達と余暇を過ごすためや、部活動で使用するなど、様々な用途で自転車を使うことが多いと考えており、自転車通学をしていない生徒も使用するため、一律の補助については整理して慎重に検討させていただきたいとお答えしました。次に、自転車通学者のヘルメットや雨具の購入補助については、以前に比べてヘルメットの必要性が高まっているため、安全確保の視点から、情報収集や検討に取り組みたいとお答えしました。

(金澤教育長) 文教福祉委員会について、御質疑、御意見はありませんか。

(金澤教育長) 御質疑、御意見なしと認めます。

(金澤教育長) これをもちまして、協議報告事項を終了します。

(金澤教育長) それでは次に、催し案内等について説明願います。

(梅沢中央図書館長) 1番から6番まで、中央図書館の催しです。まず、「意外と知らない? 図鑑のミカタ」は、科学博物館と中央図書館のコラボで開催します。本と標本と一緒に展示し、身近な生物などを例に分かりやすく説明します。続いて、3番は、歴史文書館開館1周年記念講演会です。「古文書がもたらす未来への力～歴史は地域の人びとを前進させうるか～」というタイトルで、中央学院大学教授の白水智先生から講演いただきます。5番、栃尾美術館で7月6日から「写真展 星野道夫 悠久の時を旅する」を開催します。8月25日には、星野道夫さんの奥様が、長岡造形大学の山田博行先生と「悠久の時を旅する星野道夫が見続けた風景をたどって」というタイトルで講演されます。

(金垣教育部参事) 7番は大変人気な催しで、「髪結い@長谷川邸」を6月30日(日)に、長谷川邸で開催します。8番は、今年、中越大震災から20年となることもあり、「救え! 山古志の文化財～民具と古文書が語るもの～」を、やまこし復興交流館おらたるで開催するものです。9番は、生きものガイド「探検! ナイトパーク」です。定期開催している自然観察会で、今回は千秋が原ふるさとの森公園で、夜の

公園を探検します。10番、「公式アプリはじまりました」は、寺泊水族博物館の公式アプリが誕生しました。スタンプを集めると入場券がゲット出来たりします。夏休みに活用していただきたく、宣伝をかねてお知らせします。

(大久保子ども家庭センター所長) 子ども家庭センターは、6月29日に、発達支援講座「医療の視点から考える！発達特性に応じた子どもとの関わり方」で保護者向けの講座を開催します。

(金澤教育長) 催し案内で、御質疑などありますか。

(金澤教育長) 「意外と知らない？図鑑のミカタ」について、中央図書館と科学博物館のコラボ企画は新しい取組で良いですね。是非、充実して行ってください。

(金澤教育長) これをもちまして本日の定例会は閉会します。ありがとうございました。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員